

第 41 回国民文化祭
第 26 回全国障害者芸術・文化祭

基本構想

令和 6 年 9 月

高 知 県

1 基本的な考え方

(1) 開催意義

高知県は、黒潮がもたらす温暖な気候や変化に富んだ海岸線、四万十川や仁淀川に代表される清流、緑深い山々といった豊かで美しい自然に恵まれています。それは、自由で豪快、さらに大らかな中にも芯の通った気質と行動力に富むという県民性の醸成に大きく影響しています。

県内のそれぞれの地域では、古くから伝わる無形文化財の神楽をはじめとする伝統芸能、皿鉢料理に代表される食文化、平安時代から脈々と引き継がれてきた遍路文化、土佐和紙や土佐打刃物といった伝統工芸、時代とともに進化を続けるよさこい祭り、著名な漫画家を数多く輩出したまんが文化など、特色ある文化や芸術を発展させ、今に伝えてきました。

こうした文化や芸術は、私たちの暮らしや人生を豊かにし、多くの人の心の支えになっています。また、文化や芸術を大切にし、次の世代に引き継いでいくことは、県民の誇りや生きがいとなり、さらには地域の活性化にもつながります。

しかしながら、近年では、少子・高齢化と過疎化の進行に伴い、担い手が不足し、次の世代への継承が危ぶまれる伝統芸能も少なくありません。

このような中、本県において国民文化祭を開催することは、県民一人ひとりが本県の文化の価値を再認識し、文化芸術活動により一層親しみ、郷土への愛着を育む絶好の機会となります。

また、本県では、障害のある人もない人も共に支え合い、安心していきいきと暮らせる共生社会の実現を目指しています。全国障害者芸術・文化祭の開催は、障害のある人の生きがいや生活の質の向上につながるとともに、地域の人々との相互理解がより一層深まる契機となります。

全国から注目が集まるこの大会をきっかけとして、国内外の人々との交流を拡大し、本県における文化芸術のさらなる振興と中山間地域などに伝わる伝統芸能の再興、継承につなげ、本県が掲げる「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」の実現を目指していきます。

(2) 基本方針

①県民の総力を結集した文化の祭典

若者や高齢者、障害のある人、在住外国人など、分け隔てなくすべての県民が主体的に参画し、地域の特色を生かした多彩なプログラムを県内全域で展開する文化の祭典とします。

②特色ある文化芸術を全国に発信

豊かな海・山・川の幸に恵まれ発展してきた食文化、土佐和紙や土佐打刃物といった伝統工芸、今では海外にも広がりを見せているよさこい祭りやまんが文化など、本県の特色ある文化芸術を全国に発信します。

③中山間地域などに伝わる伝統芸能の再興・継承

少子・高齢化と過疎化の進行に伴い、担い手が不足し、存続の危機にある神楽などの伝統芸能を再興し、絶やすことなく次の世代に継承する契機とします。

④国民文化祭を契機とした観光の推進や交流人口の拡大

本県ならではの特色ある文化資源を生かした体験型・参加型プログラムなどを観光施策と連動して展開することで、国内外から多くの観光客を呼び込み、住民との出会いを創出し、交流人口の拡大を図ります。

⑤文化芸術を通じた相互理解の促進

年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、多様な人々が文化芸術活動を通じて交流することで、喜びを分かち合い、感動を共有するなど、相互理解がより一層深まる契機とします。

⑥文化芸術による魅力ある地域づくり

地域の人々の思いや努力によって引き継がれてきた文化芸術の大切さを一人ひとりが再認識するとともに、郷土への誇りや愛着の醸成を図り、いつまでも暮らしたいと思う魅力ある地域づくりにつなげていきます。

2 開催概要

(1) 名称

①正式名称

第 41 回国民文化祭

第 26 回全国障害者芸術・文化祭

②統一名称

よさこい高知文化祭^{にせんにじゅうろく} 2 0 2 6

(2) キャッチフレーズ

公募により決定

(3) 主催者

文化庁、厚生労働省、高知県、高知県実行委員会、県内市町村、市町村実行委員会、文化関係団体、障害者関係団体 等

(4) 会期

2026 年（令和 8 年）10 月から 11 月までの間で 40 日間程度

(5) 会場

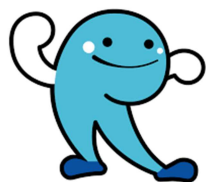
○開会式：高知県立春野総合運動公園体育館

○閉会式：高知県立県民文化ホール

○県内各地で多彩なプログラムを開催

(6) マスコットキャラクター

県民に定着している高知県のイメージキャラクター「くろしおくん」を、大会用アレンジ



(7) ロゴマーク

公募により決定

3 開催準備計画

年度	内容
2024 年度 (令和 6 年度)	○県実行委員会の設置 ○県実行委員会による基本構想（案）の決定 ○国実行委員会による基本構想の決定 ○県実行委員会企画委員会の設置 ○市町村実行委員会の設置 ○キャッチフレーズ・ロゴマークの公募・決定 ○各種広報・啓発の実施 ○実施計画（案）の策定
2025 年度 (令和 7 年度)	○県実行委員会による実施計画（案）の決定 ○国実行委員会による実施計画の決定 ○開催要項、募集要項の作成、配布 ○各都道府県に出演者・団体の推薦依頼 ○各種広報・啓発の実施 ○長崎県大会閉会式における引継式への出席、次期開催県アトラクションの実施
2026 年度 (令和 8 年度)	○各種広報・啓発の実施 ○出演者・団体の決定 ○協賛事業、応援事業の実施 ○第 41 回国民文化祭/第 26 回全国障害者芸術・文化祭の開催 ○実施報告書、公式記録の作成 ○県実行委員会、市町村実行委員会の解散

【参考】

国民文化祭基本構想検討委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	所属・役職
畦地 永生	土佐の神楽保存会 事務局長
新開 祐二	一般社団法人 日本旅行業協会中四国支部 高知地区委員会 委員長
鎌倉 昭浩 (副委員長)	公益財団法人 高知県文化財団 理事長
川田 弘人	高知県高等学校文化連盟 会長
笹岡 貴文	公益財団法人 高知縣市町村振興協会 常務理事 高知県町村会 常務理事
新納 朋代	株式会社テレビ高知 メディア技術局放送実施部長
藤原 哲	公益財団法人 高知市文化振興事業団 専務理事
古谷 純代	高知商工会議所副会頭
松本 志帆子	藁工ミュージアム 学芸スタッフ
宮田 速雄 (委員長)	株式会社高知新聞社 相談役